

この夏、皆さんはどのように過ごしましたか？今回の「KIYOSUMI」はトビタテ！留学 JAPAN をはじめ、海外サマースクール、オーストラリア短期研修、青少年の翼など、国境を越えて様々な活動や体験をしてきた生徒の皆さんたちに、感じたことや学んだことについてコメントをいただきました！！

<トビタテ！留学 JAPAN>

トビタテ！留学 JAPAN とは、文部科学省が意欲と能力ある全ての日本の若者に、海外留学に自ら一歩を踏み出す気運を醸成することを目的として、2013年10月より留学促進キャンペーンとして開始されたものです。政府だけでなく民間企業の支援により、官民協働でグローバル人材を育成しようという取り組みです。

本校では書類審査や面接を通して選抜された3名が、各々にテーマを持ち、この夏、イギリスのロンドン、フィリピンのセブ島、フィジーのナンディへ留学に行きました。

7月末から約2週間、ロンドンにあるバレエ学校のサマースクールに参加してきました。現地との時差は夏時間で8時間あり、行きはあまり影響はありませんでしたが、帰りは少し体に応えました。期間中の月曜日から土曜日は、毎朝7時過ぎに起きて支度を済ませ徒歩で登校し、10時からballetのクラスを受け昼食を挟み4・5コマのクラスを受講して(土曜日は午前授業)、放課後にも英語のクラスを受けました。帰宅するのは19時を回った頃という、まさにダンス漬けの日々を送っていました。

学校ではballetの中でもmaster classやrepertory、それ以外にもcharacter(民族舞踊のステップを取り入れた踊り)やcontemporary,

jazz, musicality, dalcroze rhythmic, pilates, pas de deuxなどのクラスを通し、ダンサーに求められているスキルが多様化していると実感しました。pas de deuxのクラスは期間中1回だけでしたが、同年代の男子生徒とペアを組んでレッスンを受ける機会は日本では無かったので、新鮮でした。校外でも、ロイヤルオペラハウスでの舞台観賞や舞台裏見学、留学先校3年生のカンパニーやgraduation soloの公演を観たり、コンビニで買い物をしたり、pubでのランチやfish&chipsも頂きましたが、その量と美味しさには驚きました。

親許を離れた初めての海外で、EU離脱や滞在中には殺傷事件も起きるなど心配事も多い中、自分で自分の身を守る大切さも改めて感じました。トビタテのプログラムは、安全管理の面でも同じ留学生仲間と情報を共有できてとても役立ちました。事前研修では、分野の異なる仲間と互いの留学計画を磨き合い、同じダンス留学の友人もでき、意識を高く持って過ごす助けになりました。皆さんそれぞれ興味があることは違うと思いますが、トビタテなら一人一人が好きなことを通して世界と繋がるチャンスを実現できます。ぜひ中村の皆さんにも、トビタテを通じて一生の宝物をさらに増やして欲しいです。

今回は応援していただき、ありがとうございました。



私はトビタテ！留学 JAPAN の制度を利用し、フィリピンのセブ島北部にあるボゴに留学をしてきました。現地では、学校の5歳児のクラスへ行き、先生の助手のような立場で活動していました。主に、子供達がアルファベットや数字・名前を書く手伝いや道具の準備、教室内の掃除といった活動が多かったです。子供達はとても元気で、毎日学校へ行き活動するのがとても楽しかったです。

しかし、日常面では困惑することの方が多かったです。一番困ったことは、やはり言語でした。現地は英語での会話でしたが、英語ができない私にとっては、言いたいことが言えないだけでなく、相手の言っていることもあまり分からず、そんな自分に苛立ちを感じることもありましたが、本当に困ったときは同じ日本人のボランティア仲間にも助けを求め、そのおかげで毎日を無事に過ごすことが出来ました。他にも、Wi-Fi環境など日本では当たり前の事が当たり前でないことが多く、慣れるまでとても大変でした。

このような経験も全て、今回の留学がなければ経験できなかったことだし、英語を頑張ろうというきっかけにもなりました。このような貴重な経験を通して、自分の視野や価値観を広げ、今後そして将来の選択肢の幅を広げることができたので本当に留学してよかったと思います。



私は、今回フィジーのナンディという街の中にある、ドラタブ村というところへ3週間行き、村の子供達と接することを中心にボランティアをしてきました。午前中は幼稚園での活動をし、子供達に絵本を読んだり、日本の折り紙を教えたりと子供達と接することが多かったです。子供達は非常に活発で、様々なことを私に話しかけてくれました。午後は幼稚園の壁塗りの手伝いをしました。毎日暑くて大変だったけれど、壁塗りが終わった時とても達成感がありました。

今回フィジーに行ったことで学んだことがたくさんあります。そのうちの一つは、日本の常識は世界では通用しないということです。日本ではあり得ないことがフィジーではたくさんありました。例えば、一つ一つのことが時間通りに始まらないということです。学校へ見学した時にも、授業が時間通りに始まらず、皆ゆっくり過ごしているのを見てとても驚きました。さらにバスも時間通りに来ないことがあります。私が常に急いでいても、現地の人々がゆっくりしているのを見て、初めは急いでいる自分もだんだんと周りの環境に慣れてきて、現地の人々とゆっくりすることが増えました。そのような生活をして改めて日本は、時間に堅実な国だと思いました。

今回フィジーへ留学に行ったことで、もう少し世界にも目を向けてみようかなと考えるきっかけになりました。そしてこのように留学の出来る環境の有難さを知りました。留学に関わってくださった全ての方々に感謝したいです。



< 海外サマースクール >

私は英語には自信がなかったのですが、オーストラリアへ行って異国の文化に触れたいと思い、海外サマースクールに参加しました。

オーストラリアに着いたときはとても不安で緊張しましたが、現地も学校についてホストファミリーに会った時には楽しい気持ちになりました。そして到着した次の日から早速、学校に通いました。学校では現地の生徒と会話しましたが、生徒の話すスピードがとても速くてびっくりしました。しかし、話していくうちに少しずつ言っていることが分かるようになり、とても楽しい学校生活になりました。

私がオーストラリアの学校で通う中で日本と違うと思ったことは、お昼の前におやつタイムがあるということです。日本には、お昼の前に学校全体でおやつを食べることはないので印象に残りました。

学校から帰り少しすると夜ご飯になりました。基本は家で食べましたが、外食の時はハンバーガーを食べました。町中には日本食屋があり、カルピスやお米、お寿司などが売られていました。家で食べる時は白米が出てきて、ホストファミリーは皆お箸を使っていてびっくりしました。

休日には動物園に連れて行ってもらいワラビーに餌をあげたり、コアラを見たりしました。ワラビーがたくさん放し飼いされていて、日本の動物園とは違うなと感じました。

私は今回海外サマースクールを通じて、日本とは違う異国の文化に触れることが出来たし、英語が少し好きになりました。オーストラリアにいる間はおながすいたと思うことがなくて少し太りましたが、ホストシスターと連絡先を交換することが出来て今でも連絡を取ったりしています。

今回の海外サマースクールは、私にとって日本とは違う文化と英語の大切さを教えてくれる、いい機会になりました。

私は今年の夏休みに海外サマースクールに参加しました。私ははっきり言うとして英語はあまり得意ではありません。現地に到着してからも、英語の話すスピードの速さに、圧倒されてしまいました。

私がホームステイさせて頂いたお宅には高校三年生の女の子がいました。どう話しているかわからず、最初はなんだか距離があるような少し気まずい雰囲気でした。でもある日、彼女は私達をトランプに誘ってくれました。彼女は私達にもわかるようにこう言いました。「トランプのゲームのルールを私に教えてほしいの。そうすればあなたたちの英語も上達するはずだから。」と。私達は一生懸命彼女にルールを説明しました。簡単な英語を並べただけではありますが、彼女も理解してくれたので私はそれがとても嬉しかったです。

それからというもの、私は自分から積極的に話すことができるようになりました。簡単な英語でも、自分から話そうとすることが大事だということに気付いたのです。その後も一緒に折り紙を折ったり、オーストラリアのお菓子を一緒に作ったりと、お互いの文化も学ぶことが出来ました。

オーストラリアに着いた当初はとても不安でした。しかし現地の方の温かさにたくさん気付けられたこともあり、充実した時間を送ることが出来ました。今回の海外サマースクールは、私にとってとてもいい経験になりました。



< オーストラリア短期研修 >

第4学年普通科の生徒の中から1名が選考され、約2カ月間オーストラリアに留学するプログラムです。



私はこの夏の2カ月間、オーストラリアのメルボルンに留学しました。

そこでは、本当に様々な人に出会いました。私のホストファミリーはたくさんの留学生を受け入れており、入れ違いで7人のルームメイトと出会い、学校にも、現地の生徒や私と同じ留学生のアジア人がおり、仲良くすることができました。

その中で私が最も学んだことは、出会いの大切さです。行く前の私は、「どうせ2カ月で別れるなら、無理に仲良くしなくてもいいや」と思っていたのですが、留学して間もなく、それだと何も始まらないことに気が付きました。誰とも必要以上に話さず留学を終えてしまうのは、あまりにも寂しく、退屈だと感じました。それから、意識的に自分から周りの人に話しかけるよう、常に心がけました。それは自然と私の英語の成長にも繋がり、会話していく中で、自分が上達していくのを肌で実感することができました。

最終日の夜、自然と涙が流れたとき、私はふとある言葉が浮かびました。それは、「一期一会」です。「どんなにいい人でも、悪い人でも、当たり前のように会っている人、話している人は、明日にはもう会えなくなる人かもしれない。だから、1つ1つの出会いを大切にしなければならないのだ」と。私は、もう出会うことのないかもしれない学校の友達や先生、ホストファミリーと、素敵な時間を過ごすことができるとても良かったと思っています。



< 青少年の翼 >

私は青少年の翼という江戸川区のプログラムで海外に行ってきました。このプログラムは、青少年の翼基金で小論文と面接に合格した中学2年生から高校3年生までの100名が海外派遣団として海外に派遣されるものです。

今回私が派遣された国はカナダです。カナダでは、キャンプやホームステイ、ビクトリア市内観光、ナナイモ市長表敬訪問などを通じてたくさんのことを学んできました。その中で私が一番感じた事は、英語力が不足しているということです。私は英語があまり得意ではないので現地の人とコミュニケーションをとり、会話することが出来るのかとても心配でしたが、案の定かなり大変でした。リスニング

はできたのですが、自ら話すことはできませんでした。しかし、この経験によって英語力の必要性に気づくことが出来ました。私は、このプログラムに参加し、このような経験をすることができとても感謝しています。これから大学受験というハードルに向かいますが、この経験から大学で自分が何をしたいかという目的も見えてきました。ぜひ、江戸川区に住んでいる人は青少年の翼に応募してみてください。



編集後記

いかがでしたか？これを読んで日本と違う環境・文化などに目を向け、海外に興味・関心を持っていただけたら嬉しいです。留学を体験してきた皆さんには、それぞれに大変な思いがあったと思いますが、留学を通して感じ取れた大切なことは将来まで忘れられないものなのではないかと思います。

中学生は来年の海外サマースクール、高校生はオーストラリア語学研修の参加を考えるいい機会になったのではないのでしょうか。また、トビタテ！留学JAPANでは第3期を募集しています。興味がある方はぜひ応募してみてください。